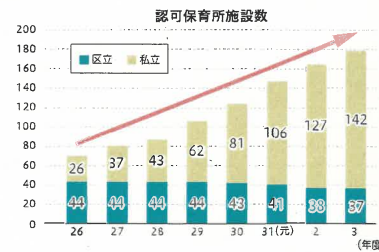


地域で進める「保育の質の向上」～中核園の取り組み

区では3年4月に4年連続で保育の「待機児童ゼロ」を実現しました。これはこの間、精力的に認可保育所の整備を進めてきた成果であり(右グラフ参照)、区内では認可外も含めると280を超える保育園が運営されています。こうした中で、さらに区全体の「保育の質の向上」を進めるには、地域の保育園が連携・協力し、支え合うことが必要です。区では独自の取り組みとして、2年4月に区立保育園の中から「中核園」を7地域に1園ずつ指定しました。今回は、中核園で地域の保育を支える園長先生や、中核園の取り組みを通して自園の保育の質の向上を進める私立保育園の園長先生にお話を伺いました。



— 問い合わせは、保育課へ。

園長同士が
支え合う
関係づくりをします



地域の園長が集まる「地域懇談会」で情報を共有し 保育の質を高める

荻窪東保育園園長 上條その子

区内にある280を超える保育園の園長が、中核園の主催で、各園の課題や取り組みを持ち寄りて情報やアイデアを交換し合い、それをもち帰って自園の保育の質の向上に生かすのが「地域懇談会」です。これまでも保育課主催で行われてきたものですが、中核園が主催することにより身近な関係の中で話が運ばれるようになり、昨年度は3回にわたり、活発な議論が行われました。

懇談のテーマは保育内容から人材育成に至るまで、地域によって多岐にわたります。施設の種類や規模が異なっても、園長たちの抱える課題や悩みには共通したものがあ

特にコロナ禍での保育はどの園もさまざまな制約や配慮が求められますが、そうした中でも日々の保育や行事について見直しや工夫をしていることが分かり、とても有意義な会になりました。今後も「地域懇談会」では、それぞれの園の特徴や個性を尊重して共に学び合う関係を築き、どの園に子どもを預けても「質の高い保育」が受けられる環境の整備に貢献していきたいと思っています。



地域懇談会の様子▲

保育士同士の交流の場を提供、保育を語り合い、 現場から保育の質を向上

阿佐谷東保育園園長 山口直子

昨年度から中核園の取り組みを進めてきた中で、新たな取り組みとして特に要望が強かったのが、保育士同士の交流事業です。現場の保育士には、同じ立場で実際に保育を行う保育士と情報交換や保育の学び合いを行いたいという思いが強

いことが分かりました。これを受けて、コロナ禍で活動に制約がかかる中ではありますが、同じ年齢を担任する保育士同士の交流の機会を設けています。各年齢の担任保育士が、保育する中での課題や保育の工夫について情報交換を行い、その取り組みを知ることで「解決のための選択肢が広がった」「新たな気付きがあり

保育の振り返りのきっかけとなった」との感想もあり、保育士同士の交流が保育の質を高めていくことに直結していると実感しています。また、保育士がお互いの施設を訪問し、保育現場について学び合えるような取り組みも考えています。

さらに保育士だけでなく、看護師同士の交流も行ったほか、今後は栄養士の交流の場なども設け、専門的な知識や技能の共有を図ることを考えています。中核園がコーディネーターするさまざまな交流を通して、保育現場の職員が「顔の見える関係」を広げながら、保育の質の向上のために協力する環境を築いていきます。

現場の職員同士の
交流で保育の質を
高め合います



子どもたちに
伸び伸びと遊べる場を
提供します

園庭のない保育園のために、 高円寺北子供園の園庭を共同利用

高円寺東保育園園長 加藤恵

区内には園庭のない保育園もあり、園庭の相互利用は「地域懇談会」でも必ず話題に上がっていました。中核園の取り組み開始当初から、園庭の共同利用は取り組み内容の一つでしたが、コロナ禍の影響もあり、なかなか実施に踏み切れませんでした。そうした中で高円寺地域では、以前より地域の方々から、旧杉並第四小学校の校庭を近隣の保育園の遊び場として活用してほしいとのありがたい要望が寄せられていま

した。これを受けて校庭を園庭として使用している高円寺北子供園の協力を得ながら、中核園が仲介役となって、本年4月か

ら近隣の保育園が交代制で利用する取り組みを開始しました。旧杉並第四小学校には自然園もあり、ザリガニやカメがいて、子どもにはワクワクする空間です。保育士からも、毎週決まった場所を利用できるので、保育の実践が継続できるの声もあり、順調なスタートが切れました。この取り組みによる繋がりを生かして、コロナの収束後には他の保育園の園庭の共同利用も広げていきたいです。



旧杉並第四小学校の校庭▲

「保育の質の向上」の取り組み

区立保育園の中から「中核園」を7地域に1園ずつ指定し、地域の保育施設間の連携や情報共有を促進しています。



保育課では各保育施設に対し、保育に関する指導・助言等を行い、保育の質の向上を図っています。

- 園長経験者による巡回
- 心理専門職による巡回
- 指導検査
- 保育士等の研修 など

※7地域に1園ずつ設置(四宮、西荻北、荻窪東、阿佐谷東、高円寺東、久我山、和泉保育園)

「ちゅうりっぷ広場」を 近隣保育園に開放して 中核園の取り組みに参画

杉並の家保育園園長、杉並区私立保育園連盟会長 澤津弘



中核園の地域連携や情報共有の取り組みは、私立保育園の保育の質の向上にとっても歓迎すべきことで、長年区で運営をしてきた当園としても、積極的に参画したいと考えていました。そうした中で、園の近くに空き地が見つかり、同時期に区が園庭確保支援制度(※)を始めたことも受け、離れの園庭となる「ちゅうりっぷ広場」を作りました。せっかくなので園庭のない保育園に開放ができればと考えましたが、どのようにすれば良いか悩んでいました。そこへ保育課から共同利用のご提案をいただき、そこから中核園の仲介で、現在は近隣4園に交代制で園庭を利用いただいています。このように中核園の取り組みは、私立保育園の課題解決に有効であり、今後も自園の取り組みに生かすだけでなく、私立保育園としても連携した取り組みの一翼を担ってまいります。

※保育内容の一層の充実に向け、私立認可保育所が園庭を確保する場合の所要経費の一部を区が独自に補助する制度。

七夕の笹の手配から、 一人担任の悩みまで相談できる 場があるのは心強い

にじいろ保育園浜田山園長 関根友巳



園ができて3年、私が園長になって2年、地域を知る上で「地域懇談会」には大変お世話になっています。「〇〇公園は季節によっては蜂がいるよ」などの情報の共有に始まり、課題について迷っている時にも、いろいろと後押ししてくれる発言が多くて心強いです。中核園が身近な保育の相談に乗ってくれることも大きく、赴任したばかりで「七夕の大きな笹はどこで手に入る?」など迷った時に、気軽に電話で聞ける環境は本当に助かりました。また保育士たちも、中核園が企画した交流に積極的に参加しています。一人担任の保育士にとって、同じ年齢を担任する先生方と情報交換できる機会は貴重です。今後もこれらの地域連携・情報共有で得た情報やアイデアを、保育の質の向上に積極的に生かしていきたいと考えています。

中核園のその他の取り組み



子どもたちの交流事業

中核園が近隣園の子ども同士の交流を企画・調整することで、大きな集団での遊びや普段交流を持たない子どもとの遊びを通じて、子どもの成長にとっての豊かな体験を提供します(現在はコロナ禍のため実施していません)。

中核園研修等

中核園が外部講師を招くなどして、保育現場に身近な環境で、地域の園の課題を踏まえた保育実技を中心とした研修を実施します。また、私立園も含む各園が実施する園内研修の相互参加を促進するため、情報収集と情報発信を行います。

中核園だよりの発行

地域の保育施設間の情報共有や連携促進を目的として、地域ごとに「中核園だより」を年5回程度発行し、地域の保育園の紹介や、中核園および各園における保育の工夫・イベント等について情報発信しています。

